

たのしい にほんご

文章の書き方

日本語で文章を書けるようになると、
仕事によっては、有利なこともあります。
今回は、作文指導の方法をお教えます。

TEXT BY KAORI STRONG



私の母から子供たちへ手紙が届くと、
何とか子供に返事を書かせたくなるもの
です。私に限らず、日本にいるおじいちゃん、
おばあちゃんへ、孫たちからのクリスマスカードや年賀状、メールを送りたいとお考えの親御さんたちは、たくさんいらつしやることでしょう。
しかし突然、紙と鉛筆を手渡され、「何か書いてごらん」と言われたら、大人でさえもしばらくは考え込みます。まして子供が、「日本語」でとなると、容易ではありません。

まずは、3行文や4行文（はじめ、「つづき」、「くわしく」、「オチ、あるいは感想」）からスタート。

3行文の例

ドーナツはあまい。
そしてやわらかい。だから好き。

4行文の例

耳は三角。鼻は長い。
なーんだ？ぼくの犬。

最後の行だけあらかじめ用意しておいて、前の2、3行だけ書かせるという練習をしてみましょう。例、「ああ、びっくりした」、「ああ、おもしろかった。」などの文を用意して応用させます。

真つ暗な部屋の中。猫の目が光った。
ああ、びっくりした。
遊園地に行った。
ローラーコースターに乗った。
ああ、おもしろかった。

書きやす内容、家族写真や絵を見せながら練習し、描写力を養いましょう。
絵日記ならぬ3行写真日記をつけてみるのもよいでしょう。

青い海。白い砂浜。
お父さんと私が笑っている。
自由の女神の前で。
お父さんと、お母さんと、
お姉ちゃんと、ぼく。
楽しかった夏休み。

その他、身近にあるもの、興味のあるもの、家族について書くことから始める

初めは保護者の助けが必要です。ノートと鉛筆を持って家の中を歩き回り、面白いことを見つけて書いてみましょう。

いいにおいがする。
お母さんがクッキーを焼いた。
お父さんに
5枚残しておいてあげよう。

このように3行文、4行文をたっぷり練習し、腕を磨いたら行数も増やして、友だちのこと、近所や学校のこと、社会のこと、外国のこと、自由に広がってきます。
発展課題として、「なりきり文」を作成してみましょう。

お母さんになりきった文
掃除をしたくない。
今晚はレストランで食べたい。
ベーカションに行きたい。
フロリダあたりがいい。

初めは、できる限り簡単なもの、たくさん書いてみましょう。

い日本語学校
15-330-5698
inoshijapaneseshool@yahoo.co.jp
ishijapaneseshool.com
トガ市、Clarkson Secondary Schoolにて、毎週日、午後6時からの1時間無料体験を随時受け付け、気軽にお立ち寄りください。

KAORI STRONG
い日本語学校校長。日本語直接法教授法のコーネル終了後、東京ランゲージスクールで日本語を教える。科学省認可の日本語教育能力検定試験に合格。リッツでもトレーニングを受け、カナダの企業でネス日本語も教えている。